

【健康・医療に関する意識調査】

日本人の寿命がさらに延びることを期待する人は、4人に1人。

高額の治療薬の使用は、55%が「気が引ける」と回答

高齢者も、「高齢者に対する過剰な診療・投薬」を自覚

“長生き”より、“高齢期の生き方”や“死に方”を重視する傾向

高齢期のライフスタイルの充実に関する研究・提言を行っております。特定非営利活動法人「老いの工学研究所」（大阪市中央区）は、「健康・医療に関する意識調査」を実施し、40歳から94歳まで533名の回答を得ましたので、その結果についてお知らせ致します。

1. 寿命の延伸に期待するのは4人に1人。4人に3人が、尊厳死の法制化を望む。

寿命や死に関する質問への回答は、以下の通りとなりました。

	そう思う	ややそう思う	どちらとも言えない	ややそう思わない	そう思わない	肯定的	否定的
日本人の寿命がさらに延びることを願う	13%	11%	37%	16%	22%	24%	39%
「とにかく長生きしたい」と思って暮らしている	19%	16%	24%	13%	27%	36%	40%
財政を考えると、高額の治療薬の使用は気が引ける	27%	28%	27%	9%	8%	55%	17%
尊厳死（平穏死）の法制化を望む	52%	22%	20%	2%	4%	74%	6%

「日本人の寿命がさらに延びることを願うか」という問いに対し、肯定的だった人（「そう思う」「ややそう思う」の合計）は24%にとどまり、否定的な回答（「そう思わない」「ややそう思わない」の合計）が、39%と大きく上回りました。また、「とにかく長生きしたい」と考える人は36%で、そうは思わない人が40%と上回っています。

「国の財政を考えると、高額の治療薬を使うのは気が引ける」と思う人は55%と半数を超えました。これらから、長く生きること自体に価値をあまり感じず、生き方を重視しようとする人が増えているものと考えられます。

尊厳死の法制化を望む人は74%に上りました。本人が望まない延命治療が施されるケースが多い現状に対し、本人の意思が尊重された死が迎えられよう、制度的な面から改善を望む人が非常に多いことが分かります。

日本は世界トップクラスの長寿国ですが、寿命の長さよりも「高齢期の生き方」「最期の迎え方」を重視する傾向が強くなっているものと考えられます。

2. 76%の人が、高齢者への過剰な診療・投薬を問題視

医療に関する質問への回答は、以下のようになりました。

	そう思う	ややそう思う	どちらとも言えない	ややそう思わない	そう思わない	肯定的	否定的
高齢者には、必要以上に治療を受けたり、薬をもらったりしている人が多い	46%	30%	17%	5%	2%	76%	7%
高齢者は、病院に行って友人や仲間に出会えるのが楽しそう	6%	11%	18%	16%	48%	18%	65%
高齢者の医療費の自己負担割合は、基本的に現役世代と同じでよい	18%	12%	26%	20%	24%	30%	44%

「高齢者には、必要以上に治療を受けたり、薬をもらったりしている人が多いと思うか」という質問に対して 肯定的な人が76%と、そう思わない人の7%を大きく上回りました。高齢者への過剰な診療・投薬を問題視している人が非常に多いことが分かります。

一方で、「高齢者は病院に行くのが楽しそう」「高齢者の医療費の自己負担割合は、現役世代と同じでよい」は、それぞれ18%、30%に留まっており、過剰診療・過剰投薬の原因が高齢者の「無駄な通院」や「安い自己負担」ではなく、病院など医療側にあると考える人が多いのではないかと考えられます。

3. 女性よりも、男性が長生きをしたいと考える

男女で、大きな差が見られたのは以下の3項目でした。

		そう思う	ややそう思う	どちらとも言えない	ややそう思わない	そう思わない	肯定的	否定的
日本人の寿命がさらに延びることを願う	男	16%	15%	34%	16%	18%	31%	34%
	女	9%	8%	39%	18%	26%	17%	44%
「とにかく長生きしたい」と思って暮らしている	男	22%	21%	28%	11%	18%	43%	29%
	女	16%	13%	21%	15%	35%	29%	51%
財政を考えると、高額の治療薬の使用は気が引ける	男	18%	31%	27%	13%	11%	48%	24%
	女	35%	26%	27%	5%	6%	62%	12%

「日本人の寿命が延びるのを願う」、「とにかく長生きしたい」と考える人の割合は、男性が女性より14%多く、「高額の治療薬の使用は気が引ける」と回答した割合では、女性が14%男性を上回りました。女性よりも男性のほうが長生きをしたいという欲求が強いことが分かります。

4. 高齢になるほど「長生きしたい」という欲求が強くなる

年代別には以下の通りとなりました。

		そう思う	ややそう 思う	どちらと 言えない	ややそう 思わない	そう思わ ない	肯定的	否定的
日本人の寿命がさらに 延びることを願う	59歳以下	6%	19%	39%	14%	22%	25%	36%
	60歳代	17%	9%	35%	18%	20%	27%	39%
	70歳代	10%	10%	34%	19%	28%	20%	47%
	80歳以上	21%	9%	42%	13%	15%	30%	28%
「とにかく長生きしたい」と 思って暮らしている	59歳以下	11%	12%	27%	12%	38%	23%	50%
	60歳代	19%	15%	27%	16%	24%	34%	39%
	70歳代	20%	17%	23%	15%	26%	36%	41%
	80歳以上	27%	22%	22%	10%	20%	49%	30%
財政を考えると、高額 の治療薬の使用は気が 引ける	59歳以下	18%	25%	31%	17%	10%	43%	26%
	60歳代	25%	32%	30%	6%	6%	57%	13%
	70歳代	29%	30%	26%	6%	10%	59%	16%
	80歳以上	35%	25%	24%	9%	7%	60%	16%
尊厳死（平穏死）の法 制化を望む	59歳以下	51%	29%	16%	3%	2%	80%	4%
	60歳代	48%	27%	16%	3%	7%	74%	10%
	70歳代	53%	20%	24%	2%	2%	73%	4%
	80歳以上	57%	14%	22%	2%	6%	70%	8%
高齢者には、必要以上 に治療を受けたり、薬 をもらったりしている 人が多い	59歳以下	50%	28%	15%	6%	1%	78%	7%
	60歳代	46%	35%	16%	3%	1%	80%	4%
	70歳代	48%	28%	19%	3%	2%	76%	5%
	80歳以上	38%	32%	18%	8%	3%	71%	11%
高齢者は、病院に行っ て友人や仲間に会える のが楽しそうだ	59歳以下	14%	32%	25%	15%	14%	46%	29%
	60歳代	6%	5%	11%	11%	68%	10%	79%
	70歳代	1%	7%	16%	16%	61%	8%	76%
	80歳以上	7%	4%	18%	23%	47%	11%	71%
高齢者の医療費の自己 負担割合は、基本的に 現役世代と同じでよい	59歳以下	21%	12%	18%	27%	22%	33%	49%
	60歳代	18%	12%	28%	21%	21%	30%	43%
	70歳代	17%	11%	33%	16%	24%	27%	39%
	80歳以上	17%	14%	21%	17%	31%	31%	48%

「とにかく長生きしたいと思って暮らしている」は、年代が上がるにつれて増え、80歳以上では約半数となりました。一方、「尊厳死の法制化を望む」のは年代が上がるにつれて減っており、現実に死を意識する年になるほど、長生きが目的になっていく傾向が伺えます。早い年代において、人生の最終盤の生き方・死に方を定める必要があるのではないかと考えられます。

「高齢者は、病院に行き友人や仲間に会えるのが楽しそうだ」は、59歳以下では半数近くがそう感じている一方、60歳以上では10%程度にとどまりました。

●まとめ

日本人の寿命がさらに延びることを望まない人が約4割、「とにかく長生きしたい」とは思っていない人も約4割と、「長寿はめでたい」といった昔ながらの考え方が大きく変わってきている状況が伺える結果となりました。尊厳死の法制化を望む人も7割超に上り、寿命よりも、高齢期の生き方、人生の最期の迎え方に関心が向いていることが分かります。

高齢者医療については、若い世代だけでなく高齢者自身も、診療や投薬が過剰になっていると認識しています。また「国の財政を考えると、高額の治療薬の使用は気が引ける」と回答した人の割合は55%に上っており、医療費の増大に対する危機感が広く共有されていることが分かります。

今回の調査から、「長生きを目的とした医療」「高齢者に対する過剰な診療・投薬」に対して批判的な態度をとる人が増えているものと思われ、医療のありように関する見直しが急務であると考えられます。

【調査概要】

- ・ 調査期間：2017年6月5日～7月15日
- ・ 調査方法：郵送、インターネット
- ・ 回答者

	男性	女性	計
59歳以下	67	57	124名
60歳以上	51	68	119名
70歳以上	76	117	193名
80歳以上	58	59	117名
計	252	301	553名

<お問い合わせ先>

特定非営利活動法人「老いの工学研究所」

研究員 川口 雅裕

大阪市中央区伏見町四丁目2番14号

06-6223-0001

info@oikohken.or.jp